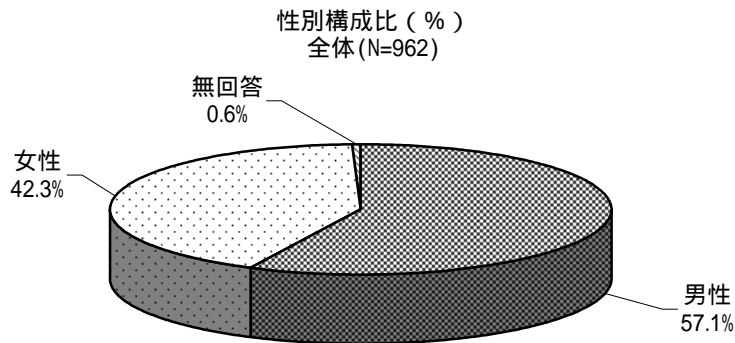


【1】属性及び家族の状況

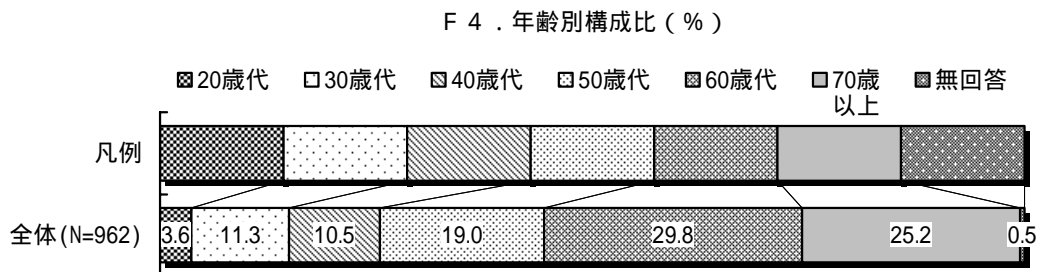
1. 性別構成比 (F3)

性別構成比は、「男性」が 57.1%、「女性」が 42.3%の内訳で、およそ 6 : 4 に近い割合となっている。



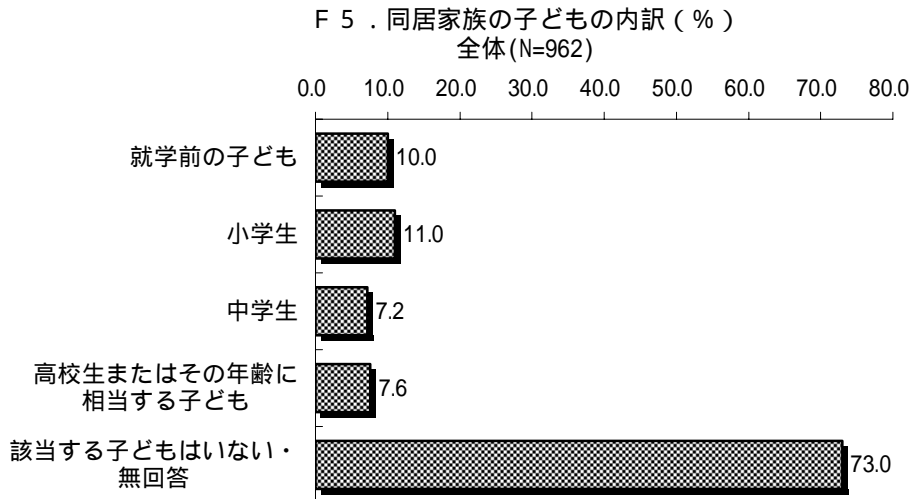
2. 年齢別構成比 (F4)

年齢は「60歳代」が 29.8%と3割近くを占め最も多く、「70歳以上」(25.2%)がそれに続く。



3. 同居家族の子どもの内訳 (F5)

同居家族の子どもについては、「就学前の子ども」が 10.0%、「小学生」が 11.0%などの内訳となっている。

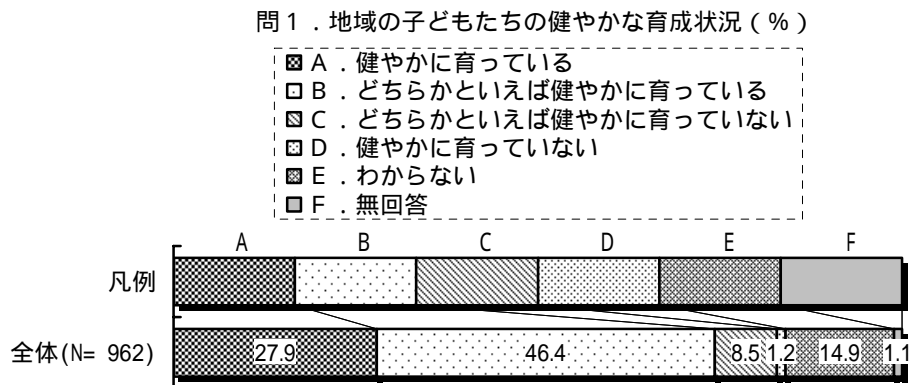


## 【2】子どもの健全育成について

### 1. 地域の子どもたちの育成状況

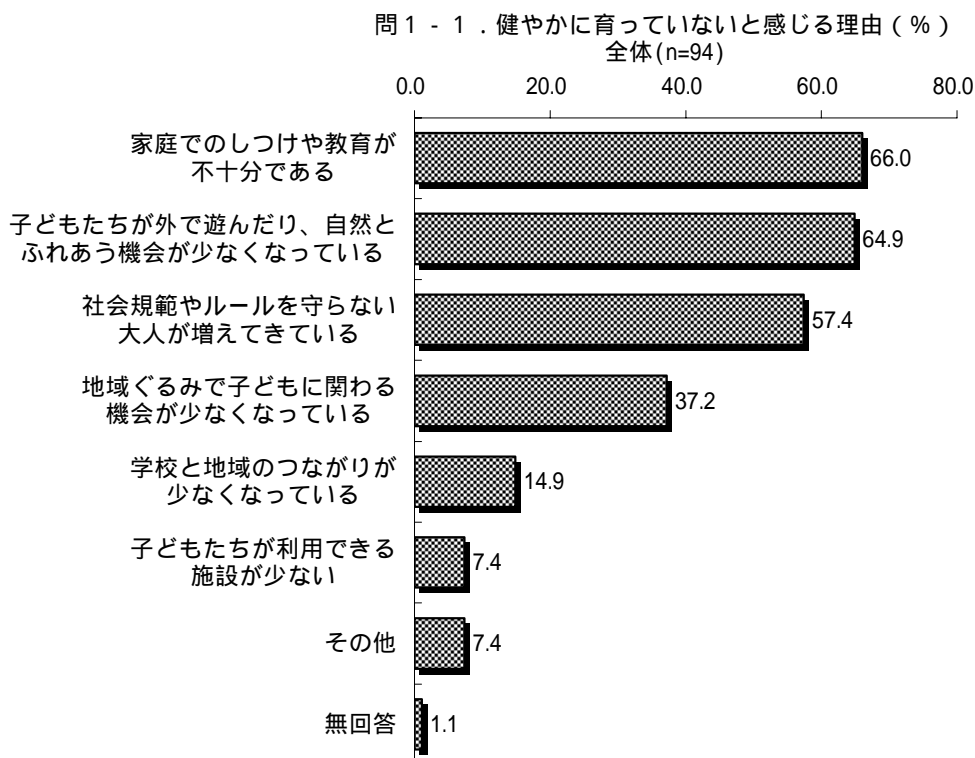
#### (1) 地域の子どもたちの健やかな育成状況 (問1)

地域の子どもたちの健やかな育成状況については、「健やかに育っている」が 27.8%、「どちらかといえば健やかに育っている」が 46.4%の内訳で、両者合計して7割以上(74.2%)が「健やかに育っている」と意識している。



(2) 健やかに育っていないと感じる理由(問1-1)

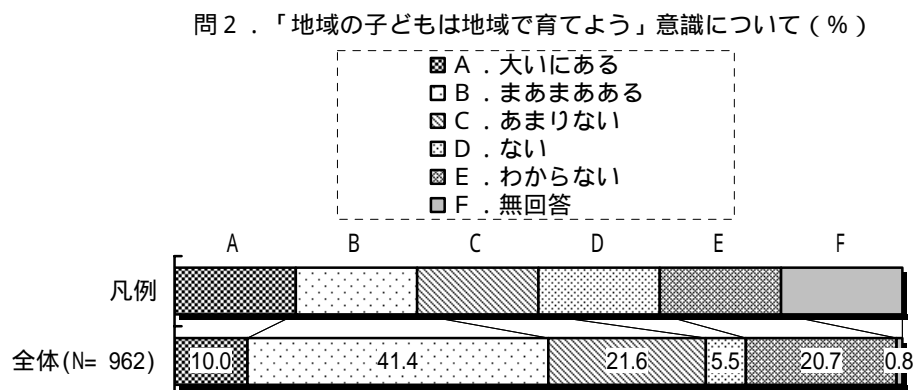
健やかに育っていないと感じる理由については、「家庭でのしつけや教育が不十分である」が66.0%と最も多く、「子どもたちが外で遊んだり、自然とふれあう機会が少なくなっている」が64.9%でほぼ並んでいる。以下「社会規範やルールを守らない大人が増えてきている」(57.4%)、「地域ぐるみで子どもに関わる機会が少なくなっている」(37.2%)などが続く。



2. 「地域の子どもは地域で育てよう」意識について

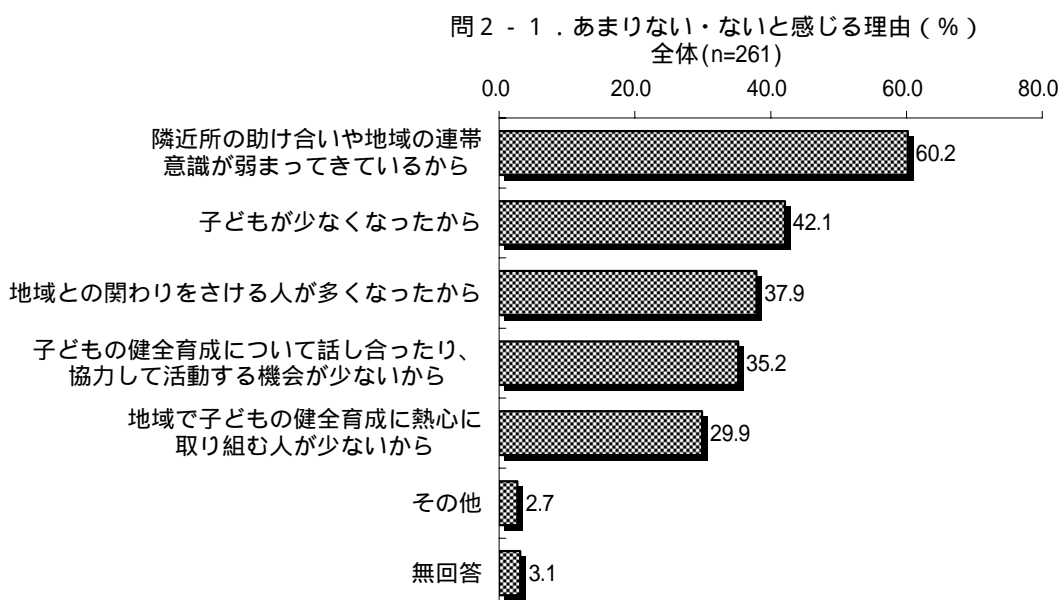
(1) 「地域の子どもは地域で育てよう」意識について(問2)

「地域の子どもは地域で育てよう」意識については、「大いにある」が10.0%、「まあまあある」が38.3%の内訳で、両者合計して半数近く(48.3%)が「ある」と意識している。



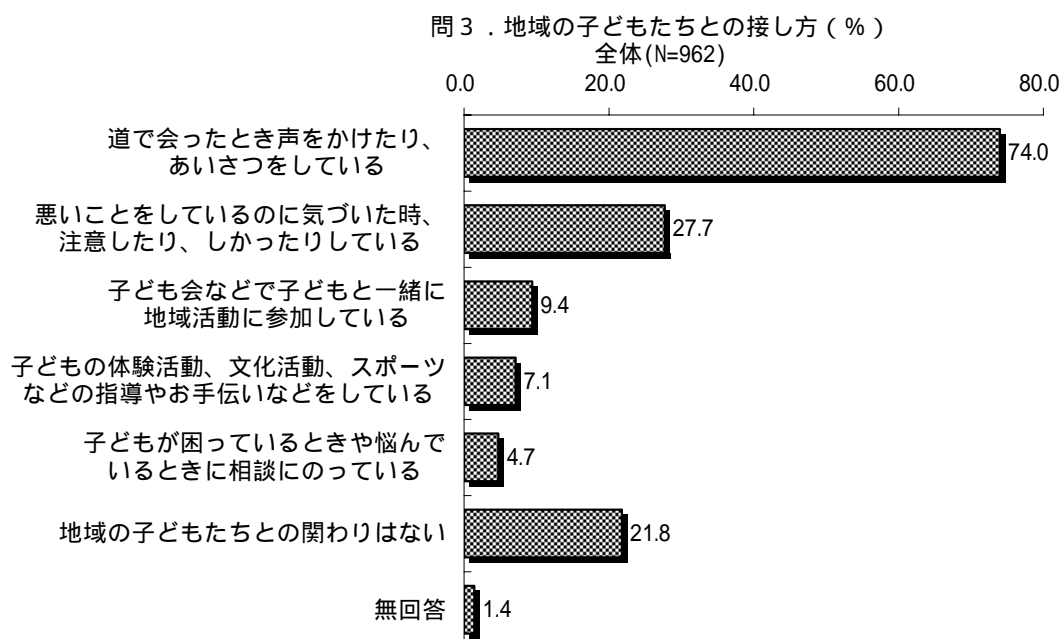
(2) あまりない・ないと感じる理由(問2-1)

あまりない・ないと感じる理由については、「隣近所の助け合いや地域の連帯意識が弱まってきているから」が60.2%と最も多く、次いで「子どもが少なくなったから」(42.1%)、「地域との関わりをさける人が多くなったから」(37.9%)、「子どもの健全育成について話し合ったり、協力して活動する機会が少ないから」(35.2%)などの順となっている。



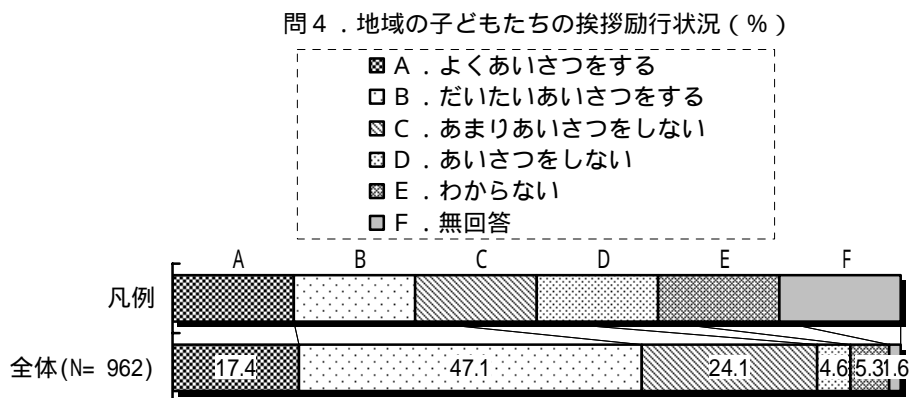
3. 地域の子どもたちとの接し方(問3)

地域の子どもたちとの接し方については、「道で会ったとき声をかけたり、あいさつをしている」が74.0%と最も多く、以下「悪いことをしているのに気づいた時、注意したり、しかなかったりしている」(27.7%)などの順となっている。「地域の子どもたちとの関わりはない」は21.8%みられた。



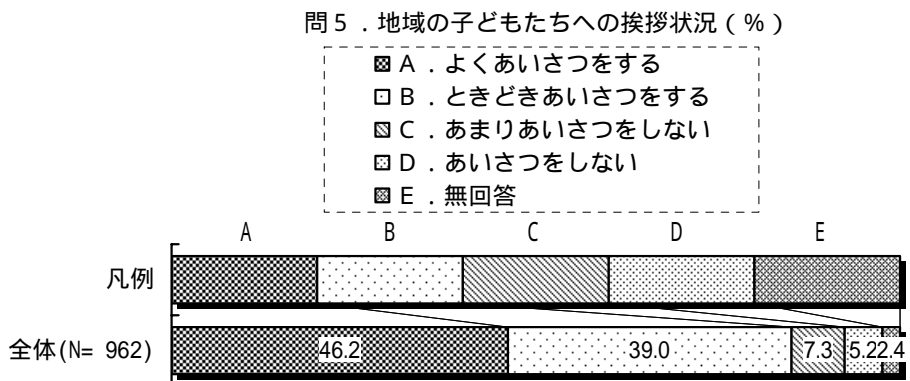
4. 地域の子どもたちの挨拶励行状況（問4）

地域の子どもたちの挨拶については、「よくあいさつをする」が17.4%、「だいたいあいさつをする」が47.1%の内訳で、両者合計して6割以上（64.5%）が、ふだん「挨拶をしている」と意識されている。



5. 地域の子どもたちへの挨拶状況（問5）

大人からの地域の子どもたちへの挨拶については、「よくあいさつをする」が46.2%、「ときどきあいさつをする」が39.0%の内訳で、両者合計して8割以上（85.2%）が、ふだん地域の子どもたちに挨拶をしている。

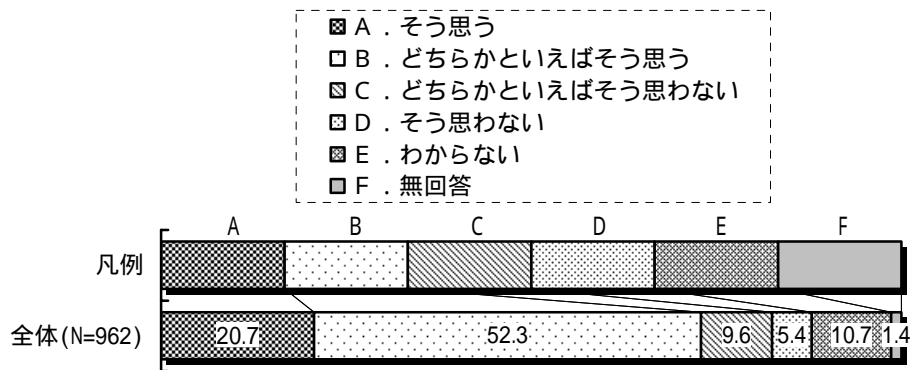


6. 地域の安全性について（問6）

(1) 子どもたちにとっての地域の安全性

子どもたちにとっての地域の安全性については、「そう思う」が20.7%、「どちらかといえばそう思う」が52.3%の内訳で、両者合計して7割以上（73.0%）が、安全と感じている。

問6 . 子どもたちにとっての地域の安全性 (%)



(2) 地域の中で気になることや場所など (問6 - 1)

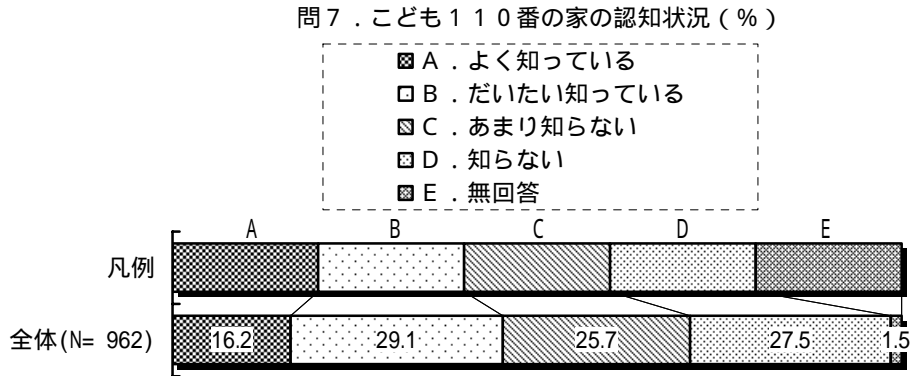
地域の中で気になることや場所などについて、自由記述で尋ねたところ、以下のような回答が典型例としてあがっている。

- 110番の家が少ない
- 朝、夕は交通量が多く危ない
- 遊び場がない。車が多い。
- 海に面している。建物の物陰が多い。監視カメラが少ない。
- 街灯が少ない
- 車が多いので危ない
- 公園など広い所がない
- コンビニが溜まり場になっている。
- 全体的に街灯が少ない
- 全体的に交通量が多い
- 通学路で人通りの少ない暗い道がある
- 通学路にいのししがよく出る
- 通学路に不審者が出る (緑が丘)
- 通学路に歩道がない (交通量の多い道路の端を歩くのは危険)
- 通学路に殆ど歩道がない
- 通学路の安全確保が不十分。
- 夜の公園、薄暗い通り、地下道、交差点
- 路上駐車が多い

など、以上抜粋

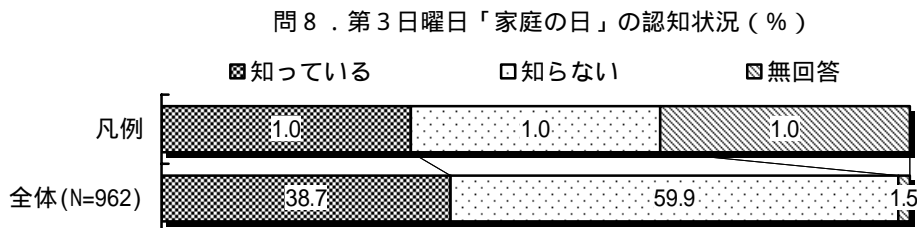
7. こども110番の家の認知状況（問7）

こども110番の家の認知状況については、「よく知っている」が16.2%、「だいたい知っている」が29.1%の内訳で、両者合計して4割以上（45.3%）が認知している。



8. 第3日曜日「家庭の日」の認知状況（問8）

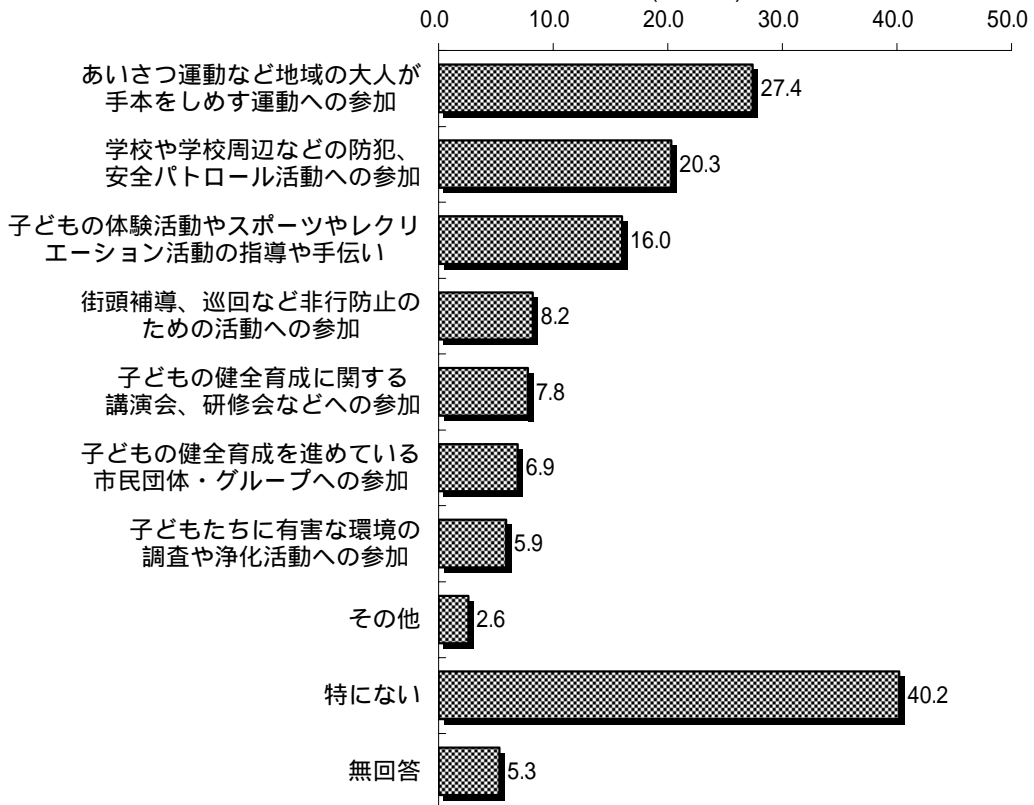
第3日曜日「家庭の日」の認知状況については、38.7%が認知している。



9. 子どもの健全育成のために参加している活動等（問9）

子どもの健全育成のために参加している活動等については、「特にない」が40.2%であることから、およそ6割程度が、何らかの活動に参加しているとみられる。参加している活動等は「あいさつ運動など地域の大人が手本をしめず運動への参加」が27.4%と最も多く、次いで「学校や学校周辺などの防犯、安全パトロール活動への参加」(20.3%)、「子どもの体験活動やスポーツやレクリエーション活動の指導や手伝い」(16.0%)などの順となっている。

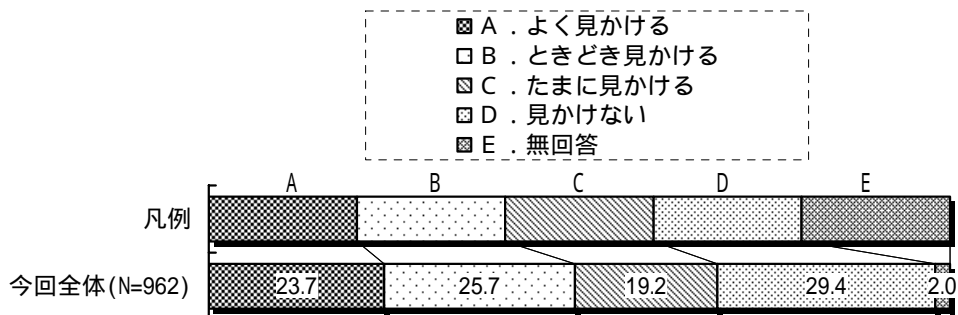
問9 . 子どもの健全育成のために参加している活動等 (%)  
全体 (N= 962)



10 . 子ども見守り隊・スクールガード活動認知状況 (問10)

子ども見守り隊・スクールガード活動認知状況については、「よく見かける」が23.7%、「ときどき見かける」が25.7%、「たまに見かける」が19.2%の内訳で、合計7割近く(68.6%)がおおむね認知している。

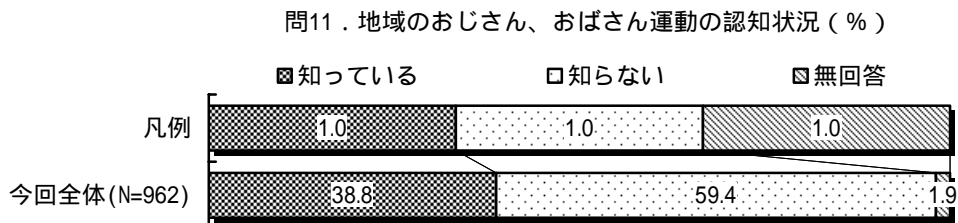
問10 . 子ども見守り隊・スクールガード活動認知状況 (%)





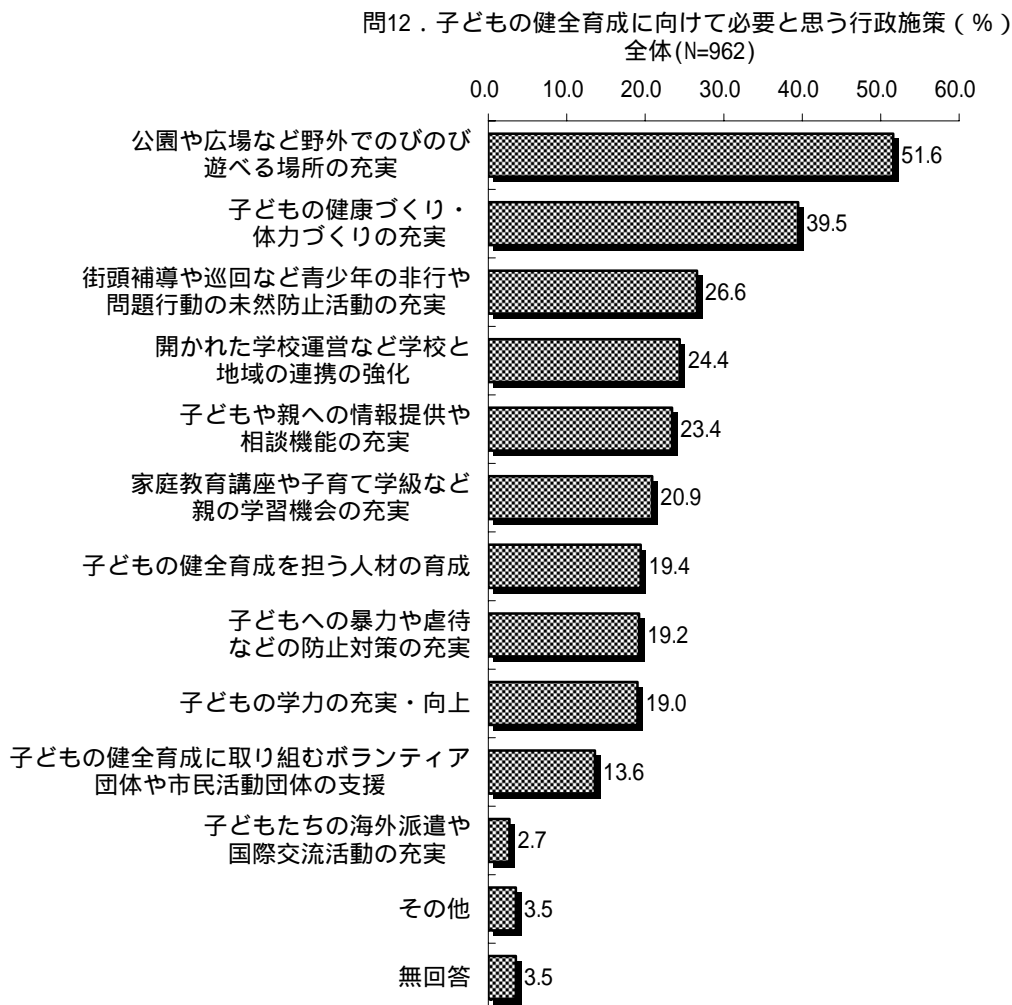
11. 地域のおじさん、おばさん運動の認知状況（問11）

地域のおじさん、おばさん運動の認知状況については、38.8%とおよそ4割の認知率となっている。



12. 子どもの健全育成に向けて必要と思う行政施策（問12）

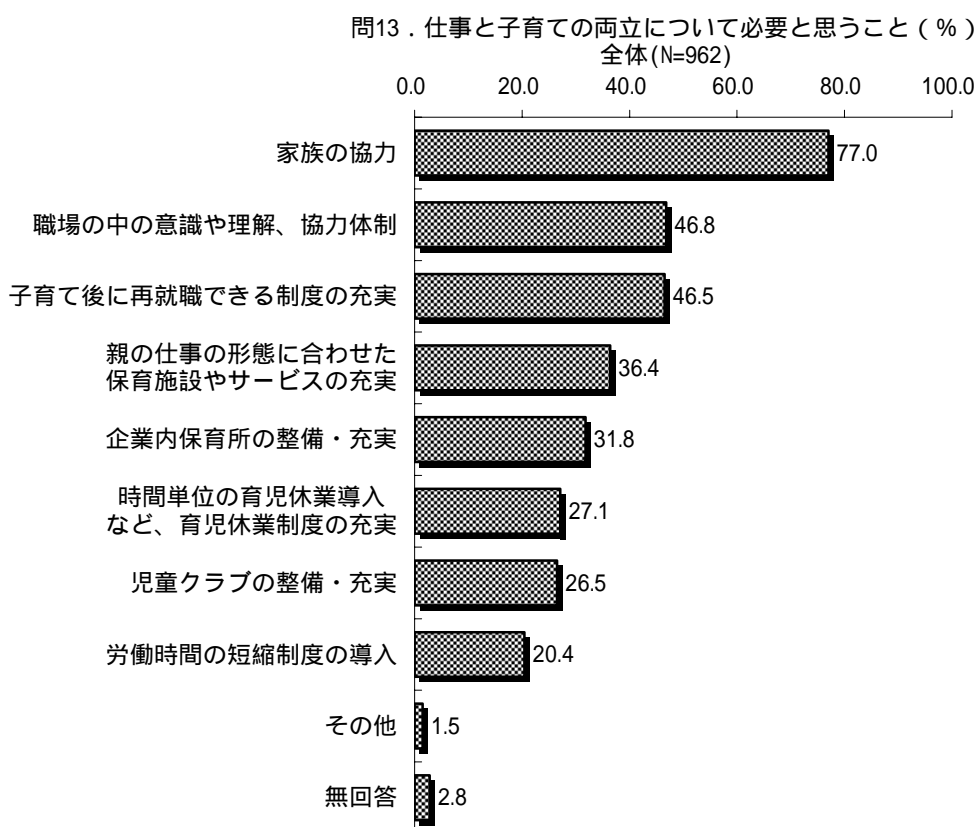
子どもの健全育成に向けて必要と思う行政施策については、「公園や広場など野外でのびのび遊べる場所の充実」が51.6%と最も多く、次いで「子どもの健康づくり・体力づくりの充実」(39.5%)、「街頭補導や巡回など青少年の非行や問題行動の未然防止活動の充実」(26.6%)、「開かれた学校運営など学校と地域の連携の強化」(24.4%)、「子どもや親への情報提供や相談機能の充実」(23.4%)などの順となっている。



### 【3】子育て支援について

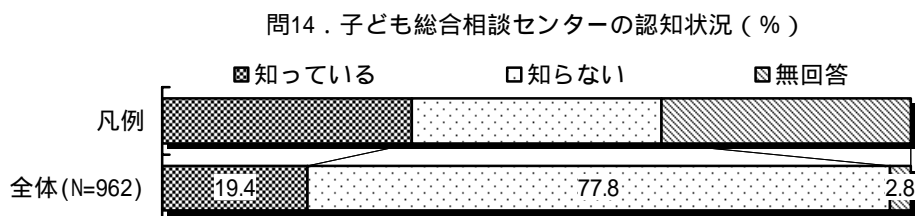
#### 1. 仕事と子育ての両立について必要と思うこと（問13）

仕事と子育ての両立について必要と思うことについては、「家族の協力」が77.0%と最も多く、次いで「職場の中の意識や理解、協力体制」(46.8%)、「子育て後に再就職できる制度の充実」(46.5%)などの順となっている。



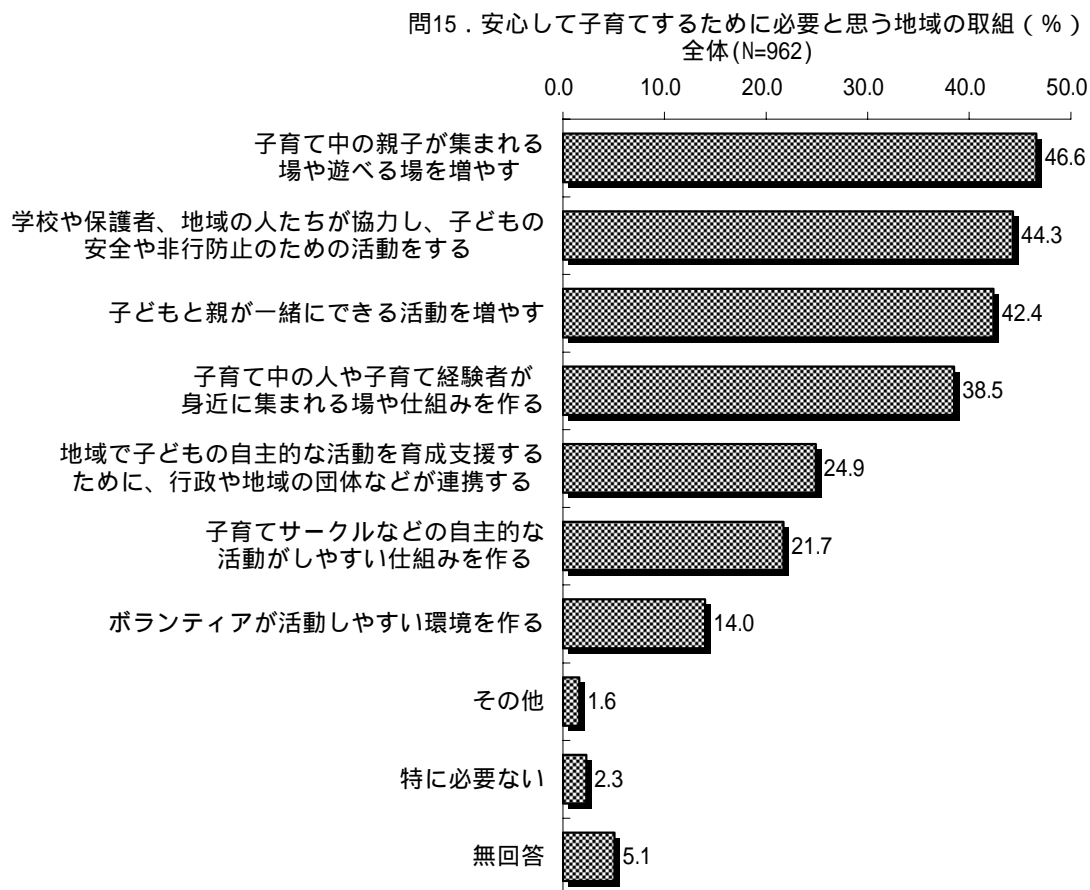
#### 2. 子ども総合相談センターの認知状況（問14）

子ども総合相談センターの認知状況については、約2割(19.4%)の認知状況である。



### 3. 安心して子育てするために必要と思う地域の取組（問15）

安心して子育てするために必要と思う地域の取組については、「子育て中の親子が集まれる場や遊べる場を増やす」が46.6%と最も多く、「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止のための活動をする」(44.3%)、「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」(42.4%)がほぼ並んで続いている。以下「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みを作る」(38.5%)などの順となっている。



4. 子育て支援について重点的に取り組んでほしい施策（問16）

子育て支援について重点的に取り組んでほしい施策については、「子育てに関する不安や悩みの相談窓口の充実」が34.2%と最も多く、次いで「子どもや親子で楽しめる公園の充実や、乳幼児連れでも活動しやすいまちづくり」（30.0%）、「職場での育児休暇の取得など、仕事と子育てが両立しやすい環境整備」（29.3%）、「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助」（24.0%）、「産後や保護者の病気のときに家で子どもの世話をしてくれる保育士やヘルパー等の派遣サービス」（18.7%）、「子育て支援に関する総合的な情報提供」（18.4%）などの順となっている。

